

地域連携室便り

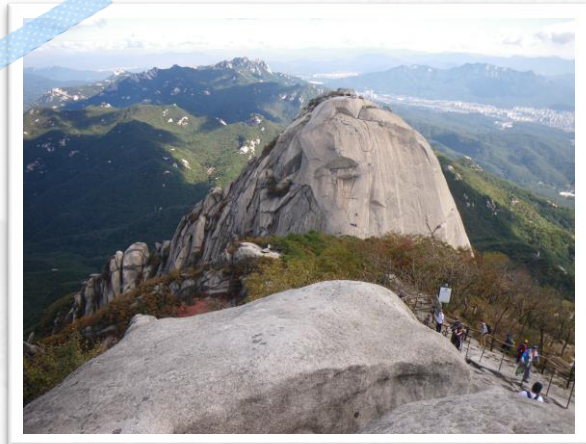
愛媛県立中央病院
地域医療連携室

No. 22 (2022年3月)

直通TEL 089-987-6270 (前方連携)

089-947-1165 (後方連携)

FAX 089-987-6271



ブカンサン 写真提供: 三木 均 地域医療連携室長

浅春の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

今回地域連携室便り No. 22 3月 を刊行いたしました。気軽に読んでいただけるようにと考えておりますが、皆様方からのご意見を頂ければ幸いです。聞きたいこと・知りたいこと等、ぜひお知らせください。

この機会にぜひメール登録をよろしく願いいたします。

今回の内容

- ① 退職の挨拶～ワンチームを目指して 三木均
- ② 骨密度測定装置を更新しました 岡本隆
- ③ Breast Awareness (ブレスト アウェアネス) について-かかりつけの患者さんへお声かけください- 松岡欣也
- ④ 第111回医療連携懇話会を終えて 岡山英樹
- ⑤ 暮らしの中の漢方医学 ーその7ー 最終回 山岡傳一郎
- ⑥ 地域医療連携室からのお知らせ～メールのご登録のお願い～

①退職の挨拶～ワンチームを目指して 地域医療連携室長・画像センター長 三木 均

このたび、定年により3月をもって、県立中央病院を退職いたします。地域医療連携室長の任は2年間と短期間ではありましたが、地域医療連携に携わる皆様には大変お世話になりました。この2年間は通常の地域連携業務改善に加えて、連携室でできる新型コロナウイルス感染対策を考え続けてきました。

コロナ禍でも情報発信できるように「地域連携室便り」を発刊(2020・6)、ハイブリッド形式での医療連携懇話会の再開(2020・8)をいち早く進めました。メール登録の推進、医療連携システム「媛さくらネット」導入、医療連携懇話会のオンライン予約化なども、スタッフが一丸となって取り組んだ成果です。「かかりつけ医」の推進など取り組むべき事は沢山ありますが、引き続き皆様のご支援とご協力が不可欠です。

今後とも、県立中央病院・地域医療連携室のご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



②骨密度測定装置を更新しました

放射線部 技師長 岡本 隆

今まで、当院の骨密度検査は、骨密度(BMD: Bone Mineral Density)の測定しかできませんでしたが、骨密度測定装置の更新に伴い、骨質(骨の微細構造や骨代謝構造)の評価をはじめ、様々な検査が可能となりましたので、新装置の特徴についてご紹介いたします。

<装置について>

- ・導入した装置は、Hologic社製 Horizon A型(図1)です。
- ・650×1950mmの範囲を測定可能で、体組成や内臓脂肪測定などができるようになりました。
- ・幼児(体重3kg以上)から検査が可能です。
- ・腰椎側面撮像が可能で、棘突起や腹部大動脈の石灰化を計測部位から外して測定することが可能となりました。ただし、“骨粗鬆症の予防とガイドライン2015年版”に測方向測定は診断に使用しないと記載されていますので、測定結果は参考値となります。
- ・検査時間は、10分程度です。オプション検査を追加する場合は、多少検査時間が長くなります。

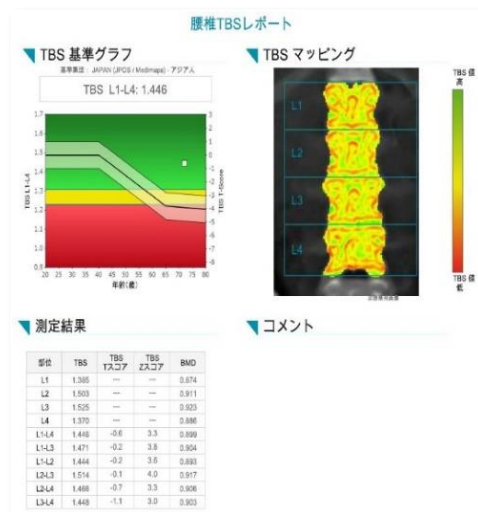


(図1) Hologic社製 Horizon A型

<新しく追加される主な解析ソフトについて>

海綿骨構造指標(TBS)

骨密骨評価を補足する指標として腰椎の骨微細構造が把握でき、より正確な骨の質の評価や骨密度が高い方に起こる脆弱性骨折リスクを評価することができます。TBSの結果は、海綿骨の微細構造を色や数値で評価し海綿骨が緻密であれば緑色で、内部が粗になるにつれて赤色で評価されます。数値では、1.230以下がHigh Risk、1.230から1.31未満がMiddle Risk、1.31以上がLow Riskとなります。(図2)



(図2) TBS解析レポート

大腿骨構造解析(HSA)

大腿骨骨密度測定は、X線を投影した2次元データであり、立体構造的評価ができません。HSAは、大腿骨2次元DXAのデータから、仮想的な三次元の大腿骨形状を皮質骨構造とともに構築し、骨強度指標を算出します。これにより、大腿骨頸部・転子部・骨幹部について、剛性・硬さ、曲げ強度、安定性を数値化し皮質骨強度を評価します。HSAに関しては骨粗鬆症でも重要な指標となっております。

当院ではTBSとHSAについては、骨密度と一緒に解析してレポート出力いたします。

骨粗鬆症にも3つタイプがあると言われています。

- A. 骨密度低下・骨質正常型 約50%
- B. 骨密度正常・骨質劣化型 約30%
- C. 骨密度低下・骨質劣化型 約20%

骨折しやすい順だとC>A>Bです。骨粗鬆症の70%は骨密度が低下し、50%は骨質が劣化していることとなります。全体の30%は骨質だけ劣化し、骨密度は正常という、いわば骨密度正常の骨粗鬆症が30%もありますので、骨密度と骨質(TBS、HSA)の2つで診断する必要があります。

体組成分析・内臓脂肪測定【オプション検査】

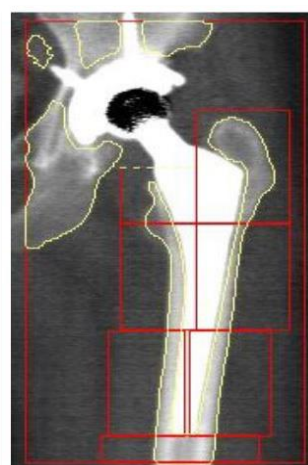
全身を撮像し骨量・脂肪量・非脂肪量を測定します。体の各部位に脂肪と筋肉がそれぞれどれだけあるかを測定できるため、どこを鍛えるべきかが明らかになり、リハビリテーションで筋肉がついたかどうか確認することができます。また、SMI (Skeletal Muscle Mass Index : 骨格筋量指数) を算出し、筋肉量が減り身体機能が低下した状態 (サルコペニアなど) の診断に用いることが可能です。(図3)



(図3) 体組成解析

人工股関節置換術の金属除去解析【オプション検査】

これまで解析不可能であった人工股関節置換術 (THA) 後のステム周囲の骨密度を測定します。金属除去解析の依頼がなければ、原則、THAが無い方の大腿骨だけを測定します。依頼があれば、片側THAの場合はTHAがある方の大腿骨金属除去解析と健側大腿骨を測定し、両側THAの場合は両側大腿骨の金属除去解析を行います。(図4)



(図4) 金属除去解析

脊椎骨折分析(IVA) 【オプション検査】

骨折リスクを増大させる脊椎変形の評価をするソフトウェアです。仰臥位の体勢で脊椎 (T4-L4) をスキャンします。潜在的な脊椎骨折の存在を明らかにすることで、骨粗鬆症による将来の骨折リスクを、より正確に把握することが可能となります。(図5)

オプション検査について

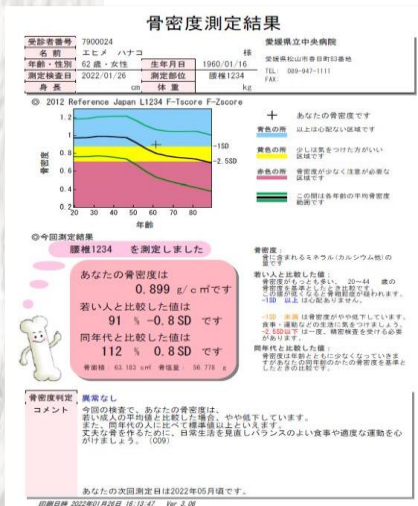
当院で実施する骨密度検査は、腰椎測定(BMD、TBS)＋大腿骨測定(BMD、HSA)を標準検査とし、その他の検査についてはオプション検査とさせていただきます。標準検査以外の解析をご希望の場合は、地域医療連携室経由で検査依頼書に記入いただければ対応させていただきます。なお、オプション検査のみの検査は受け付けておりませんので、ご了承ください。

骨密度結果レポートについて

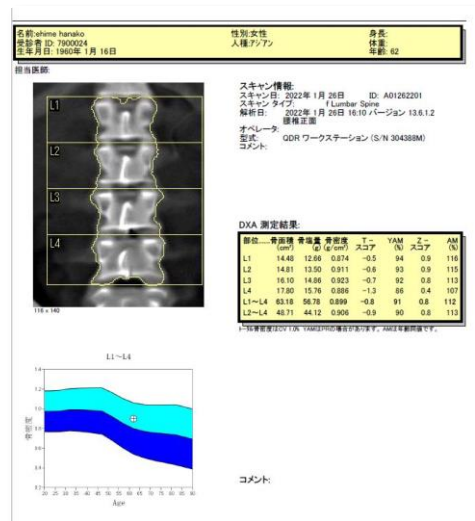
当院で実施した骨密度結果レポートは、CD-Rに保存されています。特に、腰椎と大腿骨のBMD結果については、患者様用(図6)と医師用(図7)の2種類のテンプレートがございます。適宜必要なレポートを印刷して患者様にお渡しください。それ以外のレポートは、患者様用と医師用に違いはありません。



(図5) IVA解析レポート



(図6) 患者様用レポート



(図7) 医師用レポート

検査予約について

地域医療連携室経由で検査を依頼される際には、患者様のご希望の来院時間にあわせて予約いたします。

③Breast Awareness (ブレスト アウェアネス) について

— 一かかりつけの患者さんへお声かけください —

乳腺・内分泌外科 主任部長 松岡 欣也

■乳癌は周知のように、女性が罹患する悪性新生物の中で、第一位の疾患です。国立がん研究センターがん情報サービス(gan.joho.jp)を参照すると、2018年の乳癌罹患数は93,858例で約9人に1人の割合で罹患する計算になります。年齢別の罹患率は40歳から急激に増加して、65-69歳をピークに80歳程度まで10万人に対して200人超の罹患率を示します。以前は閉経前後で2峰性のピークでしたが近年はその様子に変化してきました。これには生活習慣（特に食生活）の変化が関与していると考えられています。乳癌の死亡率は大腸（結腸+直腸）、肺、膵に次いで4番目に位置しており2019年には約15,000人が亡くなられています。乳癌の生存率は乳房に局限した進行度では10年生存率93.7%、リンパ節転移ありで68.3%、遠隔転移ありでは14.7%です。

すなわち、乳房に局限した時点で発見して治療をおこなえば良好な予後が得られるということになります。

■前置きが長くなりましたが、乳癌は予防することが難しい疾患です。早めに診断して治療を行うしかありません。かといって医療者が介入してこまめに診察することは現実的ではありません。

そこで、Breast Awarenessという概念が乳がん検診学会などから提唱されるようになりました。

【Breast Awarenessとは】

1. ご自分の乳房の状態を知る
2. 乳房の変化に気を付ける
3. 変化に気づいたら医師に相談する
4. 40歳になったら2年に1回乳がん検診を受ける

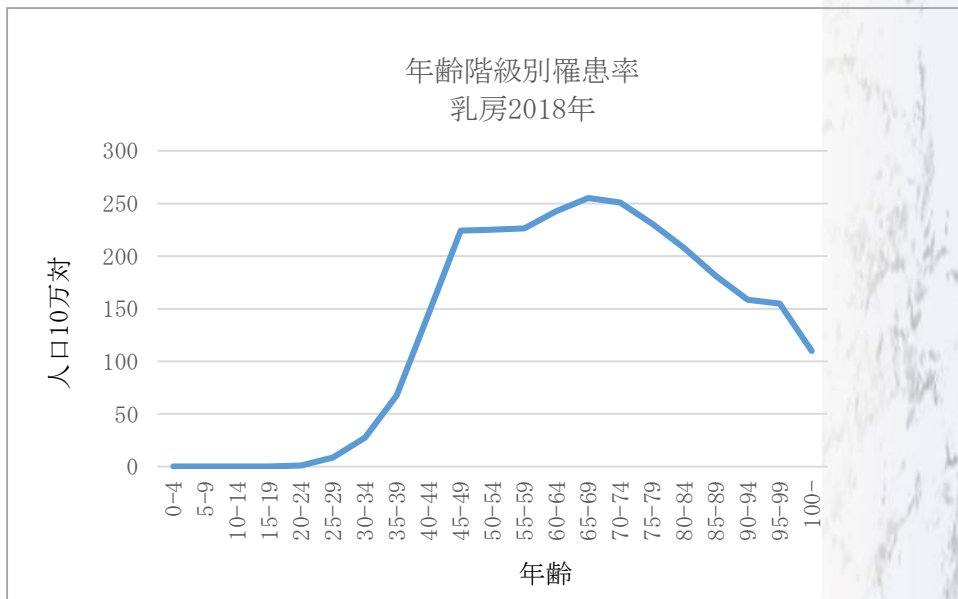
非常に重要な概念ですが、広く普及しているとは言えない状況です。これまで自己触診を勧める啓発活動もありましたが、Breast Awarenessは乳房の自己触診ではありません。『乳房を意識する生活習慣』です。普段の乳房と変わりが無いかという気持ちで気軽に「乳房チェック」をする生活習慣です。変化に気づかれて相談を受けた際には専門医への受診をお勧めください。

また、乳がん検診に関する疑問や質問を受けることも多いかと思います。検診間隔は2年でのよいのか？検診方法は何かが良いのか？などあるかと思います。対策型がん検診の目的は「がん死亡率の低下」ですので、死亡率低下のエビデンスのあるマンモグラフィ検診が対策型検診では推奨されます。J-STARTという臨床試験をご存じの方も多いかと思いますが、US検査をマンモグラフィと併用することの有効性に関する研究です。発見率の上昇にはつながりましたが死亡率の低下に関しては追跡期間10年で現在調査中です。マスコミ等でこの結果を耳にされた方の中に、マンモグラフィは痛いので敬遠されUSのみ受けられる方がいらっしゃいます。

J-STARTの結果の誤引用かと思いますが、US単独検診はこれまでの研究で非浸潤癌の発見率が低い、脂肪内の腫瘍描出能が低く見逃すことがあるといわれており、あまりお勧めできないかと思います。

かかりつけの方から乳がん検診について相談を受けられた際には2年に1回、定期的にマンモグラフィの検診を受け、要精査と判定された際には専門機関を受診することをお勧めください。

■愛媛県立中央病院 乳腺・内分泌外科もかかりつけ医の先生方の協力を得て地域の乳癌死亡低減に向けて貢献できるよう努力したいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。



国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」 (厚生労働省人口動態統計)

④第111回医療連携懇話会を終えて

循環器病センター長 岡山 英樹

今回は本年3月をもって定年退職となる副院長 鶴岡 高志先生、総合診療科・医局長 松岡 宏先生のお二人にご講演いただいた。テーマは「愛媛の循環器診療～温故知新～」でお二人が歩んできた循環器診療を振り返っていただいた。お二人とも県立病院における勤務が圧倒的に長く、県立病院の大功労者である。折しもオミクロン株による第6波の最中でありハイブリッド開催という形となったが、対面43名、Web26名の参加があった。まず松岡先生からは「私が歩んだ循環器画像診断 ～心エコーから血管内視鏡まで～」というタイトルでご講演いただいた。愛媛大学で研修医をスタート、県立中央病院、鷹の子病院、大学、県立今治病院、そして県立中央病院と勤務するなかで、循環器の画像診断について常に時代を先取りする形で業績を残してきた軌跡を、軽妙な語り口でご講演いただいた。今では当たり前になっている冠動脈CT、心臓MRIについて20年前から先鞭をつけて取り組んでこられたことを改めて理解できた。また冠動脈内視鏡についても日本をリードする仕事に携わってきたことが良く理解できた。

鶴岡先生は県立南宇和病院に26年間ご勤務され、愛媛県南予地区の地域医療に多大な貢献をされた方である。県立中央病院にご勤務になってからも、南宇和病院の外来を継続されていた。今回はその外来の循環器疾患の患者さんについて詳細に解析した内容であった。南予地区は高齢化率が高く、近い将来の日本の患者背景を予測するものである。やはり高齢化のため心不全の再入院問題などご苦勞されてきたことが良く理解できた。その後、ご出席の皆様との活発なディスカッションが行われた。

各々の置かれた立場で、昭和、平成、令和と懸命に患者の診療にあたり、そして後輩を育成してきた二人のCardiologist。感謝しかない。若手達は「故きを温ねる」ことを忘れがちである。しかしこのような先達の努力および功績を決して忘れてはならない。人生100年時代であり、お二人の経験知はまだまだ様々なところで必要とされると思う。お体に気をつけて、新天地でご活躍されますようお祈り申し上げます。長い間本当にお疲れ様でした。





⑤暮らしの中の東洋医学 —その7— (最終回)

～ COVID-19の養生には個人差あり ～ 漢方内科 山岡 傳一郎

私が当院の研修医になった1983年には、光藤英彦先生（東洋医学研究所初代所長）以外には漢方薬を処方する医師はおられませんでした。今や九割の医師が漢方を処方し、大学でも教育され、国家試験にも出題されます。東洋医学は暮らしの中の医療になったのかもしれませんが。一方、漢方薬や鍼灸の治療法だけではなく、食事や運動、そして医療哲学にも東洋医学は関与します。病気の中で、唯一敬語で呼ばれるのは（お）風邪です。いつかは普通感冒になる新型コロナも、養生の個人的時間差を尊重しあうことを忘れないで下さい。そして、知足（足ると知る）こそが暮らしの礎になるのがいいかもしれません。

⑥地域医療連携室からのお知らせ

今後各種ご案内やお知らせ（医療連携懇話会案内・地域連携室便りなど）はメール配信を推奨させていただきたいと考えております。他、県立中央病院ホームページのタイムリーな更新情報も順次配信予定です。メールでの配信を希望される医療機関様につきましては、お手数ですが、下記メールアドレスへ医療機関名を記載し、送信をお願いいたします。



<件名> メール登録（医療機関名） <本文> ・医療機関住所、電話番号

E-Mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

メールのご登録で…

医療連携懇話会の
動画配信が
ご覧いただけます！



動画配信
3つの
ポイント！



①
お好きな
時間に



②
繰り返し
再生！



③
3密
回避



お問い合わせ



愛媛県立中央病院 地域医療連携室 <担当>大矢根・渡部

TEL : 089-947-1111(代) FAX : 089-987-6271 E-mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

次回の医療連携懇話会のお知らせ

第113回医療連携懇話会
令和 4年 4月13日(水) 19:00~20:00

テーマ「高齢者と向き合う医療」

座長：副院長 玉木みずね

演者：副院長 玉木みずね

総合診療科 青木一成

地域医療連携室 松田まどか

お申込はコチラから [Click!](#)

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ



あさくらネット

地域医療連携ネットワークサービス あさくらネット

詳しくはコチラから [Click!](#)

<リンク先>
愛媛県立中央病院ホームページ



地域連携室便り

次回4月号(No.23)は
4月中旬頃刊行の予定です。
お楽しみに！